消化器がん１（肝胆膵）

ファシリテーター



澁木 太郎 Shibuki Taro

国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科/TR 支援室/総合内科/内視鏡機器開発推進室

【視聴者へのメッセージ】

Best of ESMO では、消化器がん領域の注目演題を取り上げ、試験の背景や主要結果に加え、日常診療にどのようにつながるかを皆さまと考えたいと思います。結果の数字だけでは捉えきれない解釈上の留意点を整理し、演者の先生方と議論を深めます。専門領域の先生方はもちろん、普段この領域に接する機会の少ない先生方にも、明日からの診療や今後の治療を考えるうえで役立つ時間となれば幸いです。ぜひご視聴ください。

【ご略歴】

2009 年 自治医科大学医学部 卒業
2009 年 佐賀大学医学部附属病院／佐賀県立病院好生館 初期研修医
2011 年 北茨城市立総合病院 内科 医員
2014 年 唐津市神集島診療所 所長
2016 年 伊万里有田共立病院 内科 医員
2018 年 国立がん研究センター東病院 肝胆膵内科 レジデント
2021 年 同院 肝胆膵内科 がん専門修練医
2023 年 同院 肝胆膵内科/TR 支援室 医員
2025 年 同院 肝胆膵内科/ TR 支援室/総合内科 医員
2026 年 同院 肝胆膵内科/ TR 支援室/総合内科/内視鏡機器開発室 医員
現在に至る

プレゼンター



宗 英一郎 So Eiichiro

慶應義塾大学医学部 内科学教室（消化器）

【視聴者へのメッセージ】

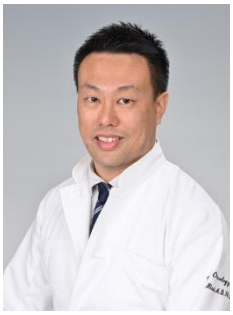
ESMO Congress 2026 は、胆道癌の一次治療に関する第 III 相試験をはじめ、膵癌の集学的治療や、術後療法における KRAS 標的ワクチンの可能性など、今後の診療を考えるうえで興味深い発表がありました。今回はこれらの注目すべき演題を取り上げ、臨床的意義や今後の展望について、皆様と考える機会にできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【ご略歴】

2018 年 3 月 慶應義塾大学医学部 卒業
2018 年 4 月 東京都済生会中央病院 初期臨床研修医
2020 年 4 月 横浜市立市民病院 内科専攻医
2021 年 4 月 平塚市民病院 消化器内科専攻医
2022 年 4 月 慶應義塾大学医学部 内科学教室（消化器） 助教
2025 年 4 月 国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科レジデント
2026 年 4 月 慶應義塾大学医学部 内科学教室（消化器） 助教
現在に至る

消化器がん２（消化管）

ファシリテーター



平田 賢郎 Hirata Kenro

慶應義塾大学医学部 内科学教室（消化器）、慶應義塾大学病院 腫瘍センター

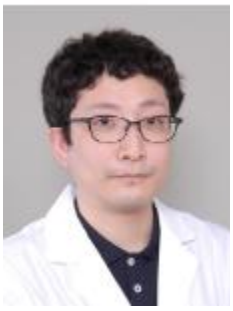
【視聴者へのメッセージ】

ESMO Congress 2026 では、消化管がん領域において、今後の治療戦略に大きな影響を与える可能性のある重要な試験結果が報告されます。本セッションでは、食道癌に対する免疫療法併用化学放射線療法を検証した KEYNOTE-975、dMMR/MSI-H 直腸癌に対する免疫療法の AZUR-1、CLDN18.2 陽性胃食道癌に対する新規 ADC の CLARITY-Gastric 01 を取り上げます。これらの結果をどのように解釈し、日常診療に活かしていくべきか、皆様とともに考える機会にできれば幸いです。ぜひご視聴ください。

【ご略歴】

2007 年　慶應義塾大学医学部卒業
2007 年　佐野厚生総合病院　研修医
2008 年　慶應義塾大学病院　研修医
2009 年　慶應義塾大学大学院 医学研究科 博士課程
2013 年　済生会宇都宮病院　消化器内科
2015 年　慶應義塾大学医学部 内科学教室（消化器）助教
2021 年　慶應義塾大学医学部 内科学教室（消化器）専任講師
2024 年　慶應義塾大学病院 腫瘍センター 副センター長・外来化学療法ユニット長
現在に至る

プレゼンター



白石 和寛 Shiraishi Kazuhiro

国立病院機構名古屋医療センター　腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】

本セッションでは、ESMO 2026 で発表された消化管癌領域の注目すべき３演題をご紹介します。食道癌に対する根治的化学放射線療法への免疫チェックポイント阻害薬併用を検証した KEYNOTE-975、dMMR/MSI-H 局所進行直腸癌に対する臓器温存の可能性を示した AZUR-1、CLDN18.2 陽性胃・食道胃接合部癌に対する新規 ADC を検証した CLARITY-Gastric 01 を取り上げ、各試験の臨床的意義と今後の治療戦略への影響について考察します。

【ご略歴】

2014 年３月　三重大学卒業
2014 年４月　国立病院機構名古屋医療センター　研修医
2016 年４月　国立病院機構名古屋医療センター　専攻医
2019 年４月　国立病院機構名古屋医療センター　腫瘍内科　医師
2023 年４月　国立がん研究センター中央病院　頭頸部・食道内科　チーフレジデント
2025 年４月　国立病院機構名古屋医療センター　腫瘍内科　医師
現在に至る

婦人科がん

ファシリテーター



温泉川　真由　Yunokawa Mayu

公益財団法人がん研究会有明病院　婦人科　兼　総合腫瘍科　兼　先端医療科臨床

【視聴者へのメッセージ】

BOE 2026 では、ESMO 2026 で注目を集めた婦人科がん領域の最新知見や臨床試験のハイライトを厳選してお届けします。婦人科の治療開発をけん引する長谷川先生が開設してくださいます 2 つの試験（KEYNOTE-C93/GOG-3064/ENGOT-en15、TroFuse-005/ENGOT-en23/GOG-3095 試験）は LBA に選ばれており、日々の臨床や今後の治療戦略に直結する重要データが満載です。
本配信が先生方の診療の一助となれば幸いです。

【ご略歴】

1998 年　広島大学医学部医学科卒業、聖路加国際病院産婦人科 レジデント
2000 年　独立行政法人四国がんセンター婦人科 レジデント
2003 年　広島大学大学院入学（社会人枠）
2006 年　広島記念病院産婦人科 医員
2007 年　国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科 がん専門修練医
2009 年　国立がん研究センター研究所 リサーチレジデント
2010 年　国立がん研究センター中央病院乳腺・腫瘍内科 医員
2011 年　広島大学大学院医歯薬保健学研究科学位取得
2017 年　がん研有明病院総合腫瘍科 兼 婦人科 副医長
2021 年　がん研有明病院婦人科 副部長 兼 総合腫瘍科 副医長
現在に至る

婦人科がん

プレゼンター



長谷川　幸清　Hasegawa Kosei

埼玉医科大学研究統括センター　国際医療センター

【視聴者へのメッセージ】

二次治療の ADC と、一次治療の化療回避。ESMO 2026 のプレジデンシャルで発表された子宮体がんの 2 試験、TroFuse-005 と KEYNOTE-C93 を、臨床への示唆とともにお話しします。

【ご略歴】

1997 年 3 月　岡山大学医学部　卒業
1997 年 5 月　同　附属病院　研修医
1997 年 9 月　岡山赤十字病院　研修医（産婦人科）
1998 年 9 月　国立福山病院　シニアレジデント（産婦人科）
1999 年 9 月　岡山大学医学部附属病院　医員（産科婦人科）
2000 年 4 月　岡山大学大学院　大学院生（免疫学教室）
2003 年 4 月　岡山済生会総合病院　医師（産婦人科）
2004 年 9 月　米国メイヨークリニック ポスドク（遺伝子治療部）
2006 年 10 月　米国ペンシルバニア大学 ポスドク（卵巣がん研究センター）
2008 年 10 月　埼玉医科大学国際医療センター　婦人科腫瘍科　講師
2013 年 8 月　同　婦人科腫瘍科　准教授
2016 年 9 月　同　婦人科腫瘍科　教授
2017 年 1 月　同　国際診療支援部　副部長
2022 年 4 月　同　TR センター　センター長
2025 年 4 月　同　院長補佐（研究担当）
2025 年 4 月　埼玉医科大学研究統括センター　国際医療センターブランチ長
現在に至る

その他１（頭頸部）

ファシリテーター



野村 基雄　Nomura Motoo

京都大学大学院医学部研究科　頭頸部腫瘍先進治療学講座

京都大学医学部附属病院　腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】

今年の頭頸部がん領域では、再発・転移性上咽頭癌に対する第 III 相試験 TAISHAN-301 や、再発・転移性頭頸部扁平上皮癌に対するアミバンタマブ併用療法 OrigAMI-4 など、注目すべき報告がありました。これらの試験結果を踏まえ、今後の治療戦略や臨床開発の方向性について、西條先生とともに議論したいと思います。ぜひご視聴ください。

【ご略歴】

2005 年 3 月　関西医科大学卒業
2005 年 4 月　関西医科大学 研修医
2007 年 4 月　関西医科大学大学院放射線科（2011 年 3 月まで）
2009 年 4 月　愛知県がんセンター中央病院放射線治療科 レジデント
2011 年 4 月　関西医科大学放射線治療科 助教
2012 年 4 月　済生会野江病院放射線治療科 医員
2013 年 4 月　愛知県がんセンター中央病院薬物療法部 シニアレジデント
2015 年 4 月　京都大学医学部附属病院腫瘍内科 医員
2019 年 4 月　京都大学医学部附属病院腫瘍内科 院内助教
2020 年 4 月　京都大学医学部附属病院腫瘍内科 特定助教
2024 年 2 月　京都大学大学院医学部研究科　頭頸部腫瘍先進治療学講座　特定講師
現在に至る

その他１（頭頸部）

プレゼンター



西條　憲　Saijo Ken
東北大学病院　腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】
「その他」の領域では、頭頸部癌に関する注目の２演題に加え、骨肉腫に対する新規治療薬の第 III 相試験、さらには今後のがん免疫療法を大きく変える可能性を秘めた個別化 mRNA がんワクチンや免疫チェックポイント阻害薬の投与間隔に関する注目の臨床試験を取り上げます。各演題の臨床的意義と今後のがん薬物療法への展望について解説いたします。

【ご略歴】
2003 年 3 月　山形大学医学部医学科卒業
2003 年 5 月　国立病院機構仙台医療センター　内科研修医
2005 年 4 月　国立病院機構仙台医療センター　消化器科レジデント
2007 年 4 月　国立病院機構仙台医療センター　腫瘍内科レジデント
2008 年 4 月　東北大学大学院医学系研究科　博士課程　入学
2012 年 3 月　東北大学大学院医学系研究科　博士課程　修了
2012 年 4 月　東北大学病院　がんセンター　助手
2012 年 12 月　東北大学病院　がんセンター　助教
2014 年 4 月　東北大学病院　腫瘍内科　助教
2021 年 7 月　東北大学病院　腫瘍内科　病院講師
2022 年 4 月　東北大学病院　腫瘍内科　講師
現在に至る

肺がん 1

ファシリテーター



後藤 悌 Goto Yasushi

国立がん研究センター中央病院　呼吸器内科

【視聴者へのメッセージ】

ESMO は年々規模を拡大し、今年も重要演題が目白押しでした。とくに中国で開発された薬剤の発表が数多くみられ、新薬開発の最前線を肌で感じる学会となりました。また、ヨーロッパならではの視点として、医療の持続可能性に言及する discussion が多かったことも印象的です。この充実した ESMO のエッセンスを凝縮した Best of ESMO を、ぜひ楽しんでいただければ幸いです。

【ご略歴】

2003 年 3 月　東京大学医学部医学科卒業
2003 年 6 月　東京大学医学部附属病院 内科
2004 年 6 月　三井記念病院 内科
2005 年 5 月　国立国際医療センター 呼吸器内科
2006 年 4 月　国立がんセンター中央病院
2009 年 4 月　東京大学医学部附属病院 呼吸器内科 医員
2010 年 3 月　東京大学大学院医学系研究科 修了（医学博士）
2010 年 4 月　東京大学医学部附属病院 検査部 特任臨床医
2011 年 4 月　東京大学医学部附属病院 呼吸器内科 助教
2014 年 11 月 国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 医員
2019 年 5 月　国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 外来医長
2025 年 4 月　国立がん研究センター中央病院 呼吸器内科 科長
現在に至る

プレゼンター



酒谷 俊雄 Sakatani Toshio

NTT 東日本関東病院　呼吸器内科

【視聴者へのメッセージ】

ESMO 2026 の肺癌領域から、今後の診療を変える可能性のある 3 つの第 III 相試験をご紹介します。Krascendo 1 では KRAS G12C 陽性肺癌に対する次世代阻害薬、SAFFRON では EGFR-TKI 耐性後の MET 標的治療、OptiTROP-Lung06 では TROP2-ADC を一次治療へ導入する新たな治療戦略が示されました。各試験の結果を整理するとともに、その臨床的意義や日本の日常診療にどのような影響を与えるのかについて皆様と一緒に考えていければと思います。

【ご略歴】

2007 年 3 月　東北大学医学部卒業
2007 年 4 月　JA 秋田厚生連平鹿相好病院 初期研修医
2010 年 4 月　がん研有明病院 呼吸器内科レジデント
2013 年 4 月　東京大学大学院医学系研究科 博士課程
2017 年 4 月　東京大学医学部附属病院 呼吸器内科 特任臨床医
2018 年 4 月　NTT 東日本関東病院 呼吸器内科
2023 年 4 月　NTT 東日本関東病院 呼吸器内科 医長
現在に至る

肺がん２

ファシリテーター



生島 弘彬 Ikushima Hiroaki

東京大学病院 呼吸器内科

【視聴者へのメッセージ】

Best of ESMO 2026 にご参加いただきありがとうございます。今年の ESMO も、TKI, allosteric inhibitor, ADC, bispecific T-cell engager など多岐にわたって、近い将来の肺がん診療を変え得る発表が目白押しでした。Lung Cancer 2 では、そのなかでも特に、ついに進展型小細胞肺がん一次治療に「道場破り」を仕掛けた bispecific T-cell engager を中心に議論したいと思います。皆様と、肺がん診療の将来展望について有意義な議論ができることを楽しみにしております。宜しくお願い致します。

【ご略歴】

2010 年 3 月東京大学大学院医学系研究科医学博士課程修了、2012 年 3 月東京大学医学部医学科卒業（M.D./Ph.D.コース）。2012 年 7 月 Human Frontier Science Program, long-term fellow。2022 年 5 月 University of London, Master of Science in Data Science。
2018 年 4 月より NTT 東日本関東病院呼吸器内科、2023 年 10 月より東京大学医学部附属病院（現、東京大学病院）呼吸器内科助教。

プレゼンター



古田 恵 Furuta Megumi

北海道大学大学院医学研究院 呼吸器内科学教室

【視聴者へのメッセージ】

ESMO 2026 では、小細胞肺癌に対するタルラタマブの新たなエビデンスが報告されます。今回は、進展型小細胞肺癌の一次維持療法を検証した第 III 相 DeLLphi-305 試験の主要解析結果と、再発小細胞肺癌を対象とした第 III 相 DeLLphi-304 試験の全生存期間の長期追跡結果をご紹介します。これらの試験結果を踏まえ、タルラタマブの有効性と安全性、今後の小細胞肺癌治療における位置づけについて考察したいと思います。

【ご略歴】

2009 年 3 月　旭川医科大学医学部医学科卒業
2009 年 4 月　北海道社会保険病院　研修医
2011 年 4 月　JA 北海道厚生連帯広厚生病院　呼吸器内科
2012 年 4 月　北海道大学病院　内科 I
2013 年 4 月　岩見沢市立総合病院　循環器内科・呼吸器内科
2014 年 4 月　北海道大学病院　内科 I
2019 年 3 月　北海道大学大学院医学研究科医学専攻博士課程修了
2022 年 8 月　北海道大学　保健センター助教
2023 年 4 月　北海道大学病院　男女共同参画推進室・呼吸器内科特任助教
現在に至る

その他２（肉腫･他）

ファシリテーター・プレゼンター



野村 基雄 Nomura Motoo

京都大学大学院医学部研究科 頭頸部腫瘍先進治療学講座

京都大学医学部附属病院 腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】

今年の「その他」領域では、免疫チェックポイント阻害薬の投与間隔を検討した MOIO、切除後メラノーマに対する個別化 mRNA ネオアンチゲン療法 INTerpath-001、再発・難治性骨肉腫に対する ARTEMIS-011 を取り上げます。異なる癌腫における最新の臨床試験結果から、治療の最適化や新たな治療戦略の可能性について考えたいと思います。ぜひご視聴ください。

【ご略歴】

2005 年 3 月 関西医科大学卒業
2005 年 4 月 関西医科大学 研修医
2007 年 4 月 関西医科大学大学院放射線科（2011 年 3 月まで）
2009 年 4 月 愛知県がんセンター中央病院放射線治療科 レジデント
2011 年 4 月 関西医科大学放射線治療科 助教
2012 年 4 月 済生会野江病院放射線治療科 医員
2013 年 4 月 愛知県がんセンター中央病院薬物療法部 シニアレジデント
2015 年 4 月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 医員
2019 年 4 月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 院内助教
2020 年 4 月 京都大学医学部附属病院腫瘍内科 特定助教
2024 年 2 月 京都大学大学院医学部研究科 頭頸部腫瘍先進治療学講座 特定講師
現在に至る

その他２（肉腫・他）

ファシリテーター・プレゼンター



土橋　賢司　Tsuchihashi Kenji

九州大学病院　血液・腫瘍・心血管内科

【視聴者へのメッセージ】

骨肉腫は特定のドライバー変異が乏しいなど、分子生物学的な治療開発の困難性を有します。そのような中、今回、遂に新規抗体薬物複合体の重要な結果が報告されました。限られた時間ではありますが、できる限りその結果、意義を共有させて頂ければと思っております。

【ご略歴】

2008 年 3 月　九州大学医学部医学科卒業
2008 年 4 月　聖路加国際病院　初期臨床研修
2010 年 4 月　九州大学病院　血液・腫瘍内科　医員
2010 年 4 月　九州大学大学院医学研究院　病態修復内科学
2011 年 4 月　慶應義塾大学医学部　先端医科学研究所　遺伝子制御研究部門　共同研究員
2015 年 10 月　九州大学病院　遺伝子細胞療法部　医員
2016 年 4 月　九州大学病院　血液・腫瘍内科　医員
2017 年 8 月　九州大学病院　血液・腫瘍・心血管内科　助教
2022 年 8 月　九州大学病院　希少がんセンター内科系コーディネーター併任
現在に至る

ディスカッサント



西條　憲　Saijo Ken

東北大学病院　腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】

「その他」の領域では、頭頸部癌に関する注目の 2 演題に加え、骨肉腫に対する新規治療薬の第 III 相試験、さらには今後のがん免疫療法を大きく変える可能性を秘めた個別化 mRNA がんワクチンや免疫チェックポイント阻害薬の投与間隔に関する注目の臨床試験を取り上げます。各演題の臨床的意義と今後のがん薬物療法への展望について解説いたします。

【ご略歴】

2003 年 3 月　山形大学医学部医学科卒業
2003 年 5 月　国立病院機構仙台医療センター　内科研修医
2005 年 4 月　国立病院機構仙台医療センター　消化器科レジデント
2007 年 4 月　国立病院機構仙台医療センター　腫瘍内科レジデント
2008 年 4 月　東北大学大学院医学系研究科　博士課程　入学
2012 年 3 月　東北大学大学院医学系研究科　博士課程　修了
2012 年 4 月　東北大学病院　がんセンター　助手
2012 年 12 月　東北大学病院　がんセンター　助教
2014 年 4 月　東北大学病院　腫瘍内科　助教
2021 年 7 月　東北大学病院　腫瘍内科　病院講師
2022 年 4 月　東北大学病院　腫瘍内科　講師
現在に至る

乳がん 1

ファシリテーター



渡邉　諭美　Watanabe Satomi

近畿大学医学部内科学教室　腫瘍内科部門

【視聴者へのメッセージ】

Best of ESMO にご参加いただきありがとうございます！今年の乳がん領域の発表では直接的に日常診療を変えるというよりも、今後の治療戦略を考えるうえで重要なヒントが詰まった演題が数多く発表されました。ESMO に参加できた方にも、できなかった方にも、新たな知見と明日からの診療につながる視点を持ち帰っていただけるセッションにしたいと思います。

【ご略歴】

2012 年 3 月　大阪市立大学医学部医学科卒業
2012 年 4 月　ベルランド総合病院　初期臨床研修医
2014 年 4 月　近畿大学医学部内科学教室腫瘍内科部門　助教
2018 年 3 月　近畿大学医学部大学院医学研究科腫瘍病態制御学（がんプロ大学院生）修了
2021 年 4 月　市立岸和田市民病院腫瘍内科　医長
2023 年 4 月　近畿大学医学部内科学教室腫瘍内科部門　助教
2024 年 4 月　近畿大学医学部内科学教室腫瘍内科部門　医学部講師
現在に至る

プレゼンター



酒井　瞳　Hitomi Sakai

昭和医科大学先端がん治療研究所

【視聴者へのメッセージ】

ESMO に現地で参加して、急遽ご紹介する演題を変更しました。日常診療を変えうるインパクトの大きな 2 演題(TROPION-Breast02 脳転移, postMONARCH OS)と結果の解釈について議論の期待される 1 演題(KYENOTE-B49)を選択しています。国際学会の度に新しい薬剤やエビデンスが登場し、知識のアップデートが大変ですが、全ては患者さんのため。一緒に学び、議論しましょう。

【ご略歴】

2009 年 3 月　横浜市立大学医学部卒業
2009 年 4 月-2012 年 3 月　亀田総合病院レジデント
2012 年 4 月-2016 年 3 月　日本医科大学武蔵小杉病院腫瘍内科　助教
2016 年 4 月-2021 年 3 月　近畿大学医学部内科学腫瘍内科　助教
2020 年 3 月　近畿大学大学院医学研究課 博士課程修了
2021 年 4 月　昭和大学先端がん治療研究所　講師
2024 年 6 月　昭和大学先端がん治療研究所　准教授
現在に至る

乳がん２

ファシリテーター



尾崎 由記範 Yukinori Ozaki

がん研有明病院　乳腺内科、先端医療開発科

【視聴者へのメッセージ】

2026 年、乳癌領域では様々な薬剤の承認や適応拡大により、治療方針が大きく変革しています。ESMO2026 では実臨床への応用について考慮すべきデータが多く発表され、エキスパートの先生方と日本の実臨床への外挿について議論します。また新規 ADC 製剤や ICI 治療戦略の展望についてもカバーします。皆様、ぜひご参加ください！

【ご略歴】

2008 年 3 月　慶應義塾大学医学部卒業
2008 年 4 月-2010 年 3 月　東京歯科大学市川総合病院 初期研修
2010 年 4 月-2014 年 3 月　亀田総合病院 腫瘍内科 後期研修医、医員
2014 年 4 月-2020 年 3 月　虎の門病院 臨床腫瘍科 医員
2017 年 7 月-現在　国立がん研究センター研究所 免疫創薬部門在籍
2020 年 4 月-2023 年 3 月　がん研究会有明病院 乳腺内科 副医長，先端医療開発科併任
2023 年 4 月-2026 年 3 月　がん研有明病院 乳腺内科 医長，先端医療開発科併任
2026 年 4 月　がん研有明病院 乳腺内科 副部長，先端医療開発科併任
現在に至る

プレゼンター



能澤 一樹 Nozawa Kazuki

名古屋市立大学大学院医学研究科　共同研究教育センター　臨床研究戦略部
先端医療・臨床研究開発学分野

【視聴者へのメッセージ】

ESMO Congress 2026 乳癌領域より、早期乳癌のトピックスを担当いたします。今年の早期乳癌領域では、明日からの臨床をただちに変えるような結果こそ報告されませんでしたが、周術期治療の強弱や個別化のあり方に示唆を与える、いぶし銀ともいえる演題が多く発表されました。本セッションでは、それらの演題を日本の日常診療の視点から読み解くとともに、今年の ESMO で存在感を示した日本人オンコロジストたちの活躍にも触れたいと思います。ぜひご参加ください。

【ご略歴】

2013 年 3 月　金沢大学医学部卒業
2013 年 4 月　名古屋医療センター 初期研修医
2015 年 4 月　名古屋医療センター 後期研修医
2018 年 4 月　名古屋医療センター腫瘍内科 常勤医
2019 年 4 月　愛知県がんセンター薬物療法部 レジデント
2021 年 4 月　愛知県がんセンター薬物療法部 医員（乳腺科部・ゲノム医療センター併任）
2022 年 5 月　愛知県がんセンターゲノム医療センターがんゲノム医療室 医長
2024 年 4 月　名古屋市立大学大学院医学研究科 共同研究教育センター 臨床研究戦略部 先端医療・臨床研究開発学分野 特任講師
現在に至る

泌尿器がん

ファシリテーター



野村　基雄　Nomura Motoo

京都大学大学院医学部研究科　頭頸部腫瘍先進治療学講座
京都大学医学部附属病院　腫瘍内科

【視聴者へのメッセージ】

今年の泌尿器がん領域では、筋層浸潤性膀胱癌に対する周術期治療を検討した VOLGA 試験や、進行腎細胞癌を対象とした LITESPARK-012、LITESPARK-011 など、重要な試験結果が報告されました。これらの結果が今後の標準治療にどのような影響を与えるのか、竹村先生の解説をもとに議論したいと思います。ぜひご視聴ください。

【ご略歴】

2005 年 3 月　関西医科大学卒業
2005 年 4 月　関西医科大学 研修医
2007 年 4 月　関西医科大学大学院放射線科（2011 年 3 月まで）
2009 年 4 月　愛知県がんセンター中央病院放射線治療科 レジデント
2011 年 4 月　関西医科大学放射線治療科 助教
2012 年 4 月　済生会野江病院放射線治療科 医員
2013 年 4 月　愛知県がんセンター中央病院薬物療法部 シニアレジデント
2015 年 4 月　京都大学医学部附属病院腫瘍内科 医員
2019 年 4 月　京都大学医学部附属病院腫瘍内科 院内助教
2020 年 4 月　京都大学医学部附属病院腫瘍内科 特定助教
2024 年 2 月　京都大学大学院医学部研究科　頭頸部腫瘍先進治療学講座　特定講師
現在に至る

プレゼンター



竹村　弘司　Takemura Kohji

がん研究会有明病院　先端医療開発科

【視聴者へのメッセージ】

近年、泌尿器腫瘍に対する薬物治療は大きく進歩しており、毎年の ESMO で新たな知見が報告されています。ESMO2026 でも、腎がん、尿路上皮がん、前立腺がんを中心に、重要な臨床試験の結果が数多く発表されました。これらの結果は日常診療をどのように変えるのか、皆様とともに考え、議論できることを楽しみにしています。

【ご略歴】

2016 年 3 月　京都大学医学部医学科　卒業
2016 年 4 月　大阪赤十字病院　卒後臨床研修プログラム
2018 年 4 月　国家公務員共済組合連合会　虎の門病院　内科レジデント/フェロー
2023 年 4 月　国家公務員共済組合連合会　虎の門病院　臨床腫瘍科　医員
2026 年 4 月　がん研究会有明病院　先端医療開発科　副医長
現在に至る